

国語科の授業で多角的な見方を育てる方法

ーワークシートベースのグループワークー

教育学研究科 教育実践創成専攻 教科領域実践開発コース 中等教科教育分野 鈴木萌夏

1. 問題と目的

神奈川県立総合教育センターの『はじめよう学習活動研究会～主体的に学ぶ生徒をはぐくむために～』には、多様な意見を知ることによって本質により近づきやすくなり、また、多様な考え方や学び方があることに生徒自身が気づくことによって、自分の考え方や学び方が広がったり深まったりするということが述べられている。ここから、多様な考えに触れるグループ活動が必要であると考えられる。

しかし、筆者の実習中のグループの話し合いの時間では、班の誰か一人だけの考えを聞いて、その考えだけをワークシートに写すという場面があった。

このようなグループ活動では、せっかく集団で話し合っているのに、一人の見方にしか触れられない。

筆者は、1つの考えだけに固執せず、多くの考えに触れ、多角的な見方をするグループ活動を目指している。筆者の考える多角的な見方とは、テキストの解釈をするときに、自分だけの考えやグループの中の1人の考えだけに固執することなく、多くの考えに触れて、様々な視点を持つことであり、そのようなグループ活動を行うことで生徒一人一人が、新たな気づきを得て、自分の考えを深めていくことができるようになる。

上記のようなグループ活動の実現のため、本研究は、ワークシートベースのグループワークを用いた授業を行い、その成果を検証する。

2. グループ活動で身に付けさせたい力

筆者の目指すグループ活動では、生徒に身に付けさせたい力が3つある。

- ①「自分の考えを相手に表現する力」
- ②「多様な考えを聞こうとする力」
- ③「相手の意見を尊重する力」

以上の3つである。これら3つの力を育てることで、多角的な見方につながっていくのだと考える。

3. ワークシートベースのグループワーク

森(2017)は、多くのアクティブラーニングの授業で、その場で課題が出され、十分に思考する間もなくアクティブな外化が求められる現状は、アクティブラーニングが抱える深刻な課題であると指摘している。

また、福田(2011)は、「集団で討議する場合には、その場では相手の意見に納得できず対立が起こる場合がある。あるいは、アイデアは出尽くしたと感じ、それ以上の討議が進まなくなってしまう膠着状態が生じる場合もある。このような事態を避けるために、(個人→集団→個人→集団→個人・・・)というように、個人で問題を考える時間を取ることが有効である。一人で考える間に、相手と自分の意見の異同を明確化し、統合していくことができる。また、その場では思いつかなかったアイデアを生み出すこともできる」と述べていて、個人の時間を作ることの重要性を指摘している。

これらを解決する方法として溝上(2018)は、ワークシートベースについて次のように述べている。「協働の学習(グループワーク)の手前にワークシートを用いたワークを入れ

ることで外形としての（個一協働一個）の学習サイクルを、学びとしての（内化一外化一内化）の学習サイクルに落とし込むことができる。」

以上のことを踏まえて、筆者は、多角的な見方を育てる授業の方法として、ワークシートベースのグループワークを活用した。ワークシートベースのグループワークを行うことで、自分の考えを明らかにすることができ、自分の考えとは違う、グループの人たちの多様な考えを認識することができるからである。

4. グループワークにおけるフリーライダー

福田（2011）によると、フリーライダーとは、「自分の努力は最小限で集団の成果の恩恵は受けようとする人のことである」と定義される。

千葉・武川・望月・山下（2010）は、グループワークを進めていく中で多くの問題が存在し、特に、話に参加することができない生徒がいることを問題視している。グループ活動をしている生徒が、自分の状態や他のメンバーの状態、また、グループ全体の状態を把握できないために、「メンバーが割り与えられた作業をしない。」「メンバーのグループワークに対するモチベーションが低い。」といった問題が起これ、グループワークが停滞してしまうという。

また、森（2017）は、グループワークにおけるフリーライダーには意図したフリーライダーと無意識なフリーライダーが存在する。意図したフリーライダーは、意図的にただ乗りを行っていて、外部からも参加していないことがはっきり分かる。無意識なフリーライダーは、グループ活動には参加しているが、思考が活性化していない状態を指すと指摘している。

筆者も、グループワークを行うにあたって、フリーライダーは少なからず存在するのではないかと考えている。そのため、本研究では、グループワークに参加しない生徒や人任せに

してしまう生徒の減少も目指している。

5. 授業実践

(1)対象及び時期

公立中学校1年生の生徒126名を対象として、2021年10月4日から10月13日に全4時間の授業構成で実施した。

(2)教材について

教材は、「星の花が降るころに」安東みきえ（光村図書「国語1」）で実施した。

主人公である“私”には小学生の頃から仲の良い友達「夏実」がいる。「夏実」とは中学に上がってもずっと親友でいようと約束をしていたのだが、何度かのすれ違いや誤解が重なってしまう。“私”は、「夏実」に話しかけようとするが、タイミングの悪さもあって思うようにいかない。“私”は失望するが、そこに幼馴染の「戸部君」が現れ、私を元気づけてくれる。“私”は、幼いと思っていた「戸部君」の成長に驚く。下校途中、「夏実」との思い出の公園に寄って見た常緑樹の銀木犀は、一年中は葉を茂らせているのではなく、古い葉を落として新しい葉を生やして生きていることを知る。銀木犀を見ながら、“私”は「夏実」との関係に思いを巡らせて自分の生き方について考えていくというストーリーである。

友人関係で悩んでいるにも関わらず、がさつに関わってくる「戸部君」のような生徒は実際にも存在するのではないかと思う。そして、「戸部君」のような存在が実は自分に大きな影響を与えていることに気づかされることを体験することがあるのではないかと思う。自分自身の経験を踏まえて、登場人物の心情を読み取らせたい。

(3)グループワークのグループ構成

人数は、3・4人班×8で組み、班は生活班で行った。この生活班は、まとめていく人がいて、互いに声を掛け、助け合いができるように構成されている。普段あまりグループ活動内において発言することができない生徒に対して、「なんて書いたの?」や「どう思う?」というように、普段グループ活動に積極的に

参加している生徒が声を掛けていて、助け合いができる班である。

(5)授業展開

表1 授業計画の内容

1時	2時
<p>【授業の柱】</p> <p>1.作者に触れ、めあての確認をする</p> <p>2.本文を読む</p> <p>3.場面の確認</p> <p>4.感想を書く</p>	<p>【授業の柱】</p> <p>5.前回の復習</p> <p>6.めあての確認</p> <p>7.比喩の確認（既習事項）</p> <p>8.本文の比喩を自分で言い換える</p> <p>9.グループごとに代表者発表</p> <p>10.授業の振り返り</p>
<p>【具体的な活動内容】</p> <p>・個人でワークシートを整理した後グループで考えを共有。(柱3)</p> <p>・作品の感想を書く(柱4)</p>	<p>【具体的な活動内容】</p> <p>・抜粋した比喩表現から1つ選び、個人で考えた後、グループで考える。(柱8)</p>
3時	4時
<p>【授業の柱】</p> <p>11.前回の復習</p> <p>12.めあての確認</p> <p>13.私の気持ちの変化</p>	<p>【授業の柱】</p> <p>17.前回の復習</p> <p>18.めあての確認</p> <p>19.銀木犀の描写に着</p>

<p>の読み取りを全体で行う</p> <p>14.私の気持ちの変化を考える。</p> <p>15.グループの中で一番納得した考えを発表</p> <p>16.授業の振り返り</p>	<p>目して私の気持ちの変化を捉える</p> <p>20.本文を黙読した後、感想を書く</p>
<p>【具体的な活動内容】</p> <p>・前半から後半にかけての私の気持ちの変化を個人で考えた後、グループで考える。(柱14)</p> <p>・グループの中で一番納得した考えを選ぶ。(柱15)</p> <p>・ワークシートに授業で大切だと思ったことを書く。(柱16)</p>	<p>【具体的な活動内容】</p> <p>・銀木犀の描写から私の気持ちを読み取る。個人で考えた後、グループで考え、個人で再び考える。(柱19)</p>

① 1時間目

1時間目のワークシートでは、場面の確認をするために「時・場所・登場人物・私の気持ちを一言で書く」という欄を設けた表を作成した。まず生徒が個人で表を整理し、次にグループで考えを共有させる。グループで考えを共有させるときに、表の「私の気持ちを一言で書く」というところが特に様々な考えが出てくると予想されるので、特に時間をかけて話し合うようにと声を掛け、話し合いの焦点を明確化した。最後に1つのグループを教師が指名し、さらに、その考えと違うグループが発表するという流れで授業を行った。

1時間目でのワークシート等の工夫として

は、生徒の書きづらさを軽減するため、所々に当初から書き込みを入れたことと、考えの違うグループを発表させたこと、また、自分と違う考えをメモしたり、根拠を聞いたりするように指示を出したことである。

ワークシートに以下のような記述が見られた。

(生徒 A) 気持ちを一言で書くところは、難しかったし、友達の見とかを聞いて変わってきたり、同じ考えとかもあったりして、班での意見交換とっても良かったです。時、場所、登場人物では、ちゃんと作品から読み取れたのでそのところも良かったです。

(生徒 B) 作品を部分に分けるとより分かりやすく読めたので良かった。感情のところは他の人と意見が違ったところがあって面白かった。

これらの生徒の記述や授業での様子を踏まえ、様々な考えに触れ、主人公の気持ちを読み取っていくことができたことやワークシートが空白になっている生徒に書こうという姿勢ができたこと、場面や主人公の気持ちの変化を整理して考えることができていたということや自分の考えと他の人の考えをワークシートに分かりやすくまとめることができたということを成果として得ることができた。

② 2時間目

2時間目では、本文中から選んだ比喩表現の意味・言い換えた比喩表現・言い換えた理由を考えるという活動を行った。本文中の比喩表現をワークシートに7つ抜粋し、個人で1つ選びグループで共有させた。次に、教師が各グループに比喩表現を割り当て、一から考えていった。最後に、グループで一番納得した言い換えを理由と共に発表させた。比喩表現を言い換えるという活動だが、鳴島(2010)は、「自分の知識や経験と結びつけ、新たな問題を解決していく力も必要。自らの経験は、すべての言葉を通じて認識されるもの。だからこそ、体験と言語を結び付けた言語活動が重要である。学習と知識や経験が結びつくことで、思考が深まると共に、新しいことを学

ぶ時に、『自分の知識や経験を基に考えれば良い』と自信を持って考えられるようになっていく』と指摘している。

2時間目でのワークシート等の工夫としては、ただ発表するだけにならないように、グループで一から考える方法を取ったことと、グループの中で参加しない生徒を減らすために、一番納得した表現を考えた人以外に発表してもらったことである。

ワークシートに以下のような記述が見られた。

(生徒 C) 2回目の比喩の回では作品中に使われている様々な比喩表現を別の言い方に変えようとするので、その場面の感情などをより詳しく考えることができた。他には、人の考えを色々聞いたので良かったと思う。

(生徒 D) お守りみたいな小さなビニール袋と比喩表現を使うことで、どれくらい大切にしてきたのか、どのような思いが込められてきたのかがより深く考えられ、理解しやすいことを気づいた。

(生徒 E) 物語の世界に入り込むには、場所や状況をよく理解し、比喩を自分の作ったものにしてみるといい。

これらの生徒の記述や授業での様子を踏まえ、様々な比喩表現の言い換えを知り、内容のイメージを深めることができていたことや自分の経験や知識を結び付けることで読みを深めることができていたということ、グループでの活動が、ただ発表するだけではなく活発化していたということを成果として得ることができた。

③3時間目

本文中の前と後で主人公の気持ちがどのように変化しているのかを読み取っていった。ワークシートは、気持ちの変化の間に「理由・根拠」の欄を設けた。前後で気持ちの変化を読み取ることができる描写が本文中に2ヶ所あったので、1ヶ所目は個人で考えた後、全体で確認をした。全体で確認をすることで方法を示した。次に、2ヶ所目をグループで話し合い、グループで話し合ったことを説明する

人を1人選び、それ以外の人は他のグループの話聞きに行くというワールドカフェ形式で行った。最後に、聞いたことをそれぞれがメモをし、自分のグループに戻った時に共有した。

3時間目のワークシート等の工夫としては、気持ちの変化の間に「理由・根拠」の欄を設けることで視覚化し、整理できるようにしたことやワールドカフェ形式にすることで、多くの考えに触れることと話し合う時間を多く取ることができるようにしたことである。

ワークシートに以下のような記述が見られた。

(生徒 F) 私の気持ちの変化を他の班を見て、全く違うのもあれば似ているものもあって、班が違う人の意見を聞くことも大切なのと思った。

(生徒 G) 感じたことや自分の根拠などが書けたので、良かった。そして自分の考えだけではなく、いろんな班の人の意見もたくさん見て書けたので良かったです。

(生徒 H) 友達と意見を交換したりして、考えを深められた。「私」の気持ちを考えることが難しかったけれど、考えることがとても大切だと思った。前半と後半の気持ちの変化を見つけ、読み取るために、本文をよく読んだり、友達と意見を交換したりすることが大切だと思った。

これらの生徒の記述や授業での様子を踏まえ、グループの話し合いで根拠を示しながら考えを述べていくことができていたことや自分の考えだけではなく、他の人の考えを聞き、多様な視点を持って、さらに自分の考えを深めることができていたということが成果として得ることができた。

④4時間目

はじめに、銀木犀という描写に着目して私の気持ちの変化を読み取っていった。銀木犀が何を象徴しているのかを全体で確認をして、共通理解した後にワークシートに取り組みさせた。ワークシートは、3つの段階に分けて作成した。ワークシート〔1〕の段階では、自分

で考え、隣同士で意見共有する。ワークシート〔2〕の段階では、自分で考えた後、グループで話し合う。ワークシート〔3〕の段階では、再び自分で考えるというものである。このワークシートは、「溝上慎一の教育論」の中で紹介されている、静岡市立高等学校の川嶋一枝教諭の授業で用いられたワークシートを参考にしている。最初からグループワークに入ってしまうと一部の生徒が話して終わってしまい、他の生徒は聞くだけで終わってしまう可能性がある。〔1〕の段階を踏むことで自分の考えを書き、伝えるということができる。また、〔3〕があることで、他者の意見と自分の意見を比べ、同じ点と異なる点を明確化させ、考えることができる。

4時間目のワークシート等の工夫としては、ワークシートを「個人→グループワーク→個人」の順で作成し、自分で考え直す時間を取ったことや銀木犀が何を象徴するのかを明確化し、全体で共通理解したこと、自分の考えの変化を視覚化し整理できるようにしたことである。

ワークシートの〔1〕から〔3〕で以下のような記述が見られた。矢印の前が〔1〕で、後が〔3〕である。

(生徒 I) これからは前向きに行こう。
→夏実との過去の思い出に捉われず、これからは新しい思い出を作ろうという前向きな気持ち。

(生徒 J) 夏実とは仲が悪くなったけれど、改めて頑張ろう。
→夏実に嫌われてしまったかもしれないけれど、古いことに捉われず前に進んで行こう。

(生徒 K) 夏実との別れで寂しい感じがするが、少しまだ希望が残っているように感じた。
→夏実に嫌われてしまったかもしれないけれど、そのことに捉われず新たな人生を歩んで行こう。

これらのように、最初（ワークシートの1の段階）に記述した考えよりも、最後（ワークシートの3）に記述した考えの方が、考えを深めることができていた生徒が多くいた。

ワークシートには、以下のような記述も見られた。

(生徒L) 銀木犀＝楽しい思い出とすると、続々とその時の気持ちが分かるようになりました。「星の花が降るころに」は、今までの楽しい思い出をここにおいて、また新たな楽しい思い出をつくらうとしていたんだなと思いました。

(生徒M) 夏実への気持ちの変化を銀木犀を使い表していると思う。どうしてそう思うのかというと、初めは夏実と遊んで楽しいと思っていた。けど、最後は、私も変わるんだという気持ちになって、思い出の木の下をくぐって出たから。

(生徒N) 班の人との意見を交流して、自分の意見(最初)から少し変わった。何度か読んでいるうちに「私」の気持ちがよく分かった。

(生徒O) 班で話し合っ、上手く自分なりにまとめられたので良かったと思う。

これらの生徒の記述や授業での様子を踏まえ以下のような成果を得ることができた。1つ目はワークシートを用いて、自分の考えと他の人の考えで違う点や似ている点を明確化し、考えることができていたということである。2つ目は、本文中の「銀木犀」が何を象徴しているのかを全体で確認をして共通理解したことで、「銀木犀」という描写に着目して、私の気持ちの変化を考えることができていたということである。

6.本実践の成果

(身に付けさせたい力①：自分の考えを相手に表現する力)

生徒の様子を見ていて、自分の言葉や教科書を使って、根拠や理由を説明している姿や「ここまではAさんと同じだけれどここからは違うね」というように、グループの他の人の考えと自分の考えで同じ点と違う点を明確にして話している姿があった。以上のことから、自分の考えを相手に表現することができているといえる。

(身に付けさせたい力②：多様な考えを聞こうとする力)

生徒の感想で以下のような記述が見られた。

(生徒P) 友達の意見とかを聞いて変わってきたり、同じ考えとかもあったりして、

班での意見交換とっても良かったです。

(生徒Q) 感情のところが他の人と意見が違ったところがあって面白かった。

(生徒R) 人の考えを色々聞けたので良かったと思う。

(生徒S) 班で交流をして、夏実と主人公のことを詳しく書いている人や銀木犀の木のことを詳しく書いている人もいて、最初は主人公の気持ちしかわかっていなかったが、最後には主人公だけではなく、夏実や戸部君、銀木犀のことも考えることができるようになった。

これらの記述から、多様な考えを聞くことができているといえる。

(身に付けさせたい力③：相手の考えを尊重する力)

生徒の様子を見ていて、相手の考えをうなずきながら聞き、「なるほど」「そういう事ね」と声を掛けてあげている姿や相手の考えをワークシートにメモをしている姿があった。また、生徒の感想に以下のような記述があった。

(生徒T) 他の人とここはどういう感じかを話し合う時、思っていることを言葉にするのはすごく難しかったです。でも、友達の意見を聞いて、「そういう表現の仕方があるのか」と思うことが何度もあり、良い勉強になったと思います。

これらの生徒の記述や様子から、相手の考えを尊重することができているといえる。

(フリーライダーへの対応)

生徒の様子を見ていて、ワールドカフェ形式で行うことで、メモをしっかりとって、グループの人に説明している姿勢があった。また、2時間目で行った、グループの中で一番納得した表現を考えた人以外に発表をしてもらうことで、グループの人の考えを聞こうとする姿勢があった。以上のことから、フリーライダーを減らすことができたといえる。

(生徒の読解の変容)

実践による、生徒の読解の変容を、初読と実践終了後の感想で比較した。生徒の感想で以下のような記述が見られた。矢印の前が、初読の感想で、後が実践終了後の感想である。

(生徒U) 主人公が最初に夏実と話しかけて違う相手の方に行ってしまった時に悲しかったり、悔しかったりした感情があったと思うけれど、戸部君と話して楽しそうで良かったです。

→主人公が初めに夏実と話しかけた時悔しいや悲しいと思っていたかもしれないけれど、戸部君をきっかけに主人公の気持ちが変わっていくのがわかりました。主人公が銀木犀の木の下をくぐって行く時や星形の花を土の上にぱらぱらと落としたときに夏実との思い出や過去のことにとずっとつながっているのではなく、新しい友達や新しい思い出などを作ろうと勇気をつけてよかったなと思いました。この物語はたくさんの比喩が使われていたりするのがわかりました。

(生徒V) この物語を読んで「私」の思いが最初から最後まで変わっていく様子に強くなったなと思いました。

→この物語を初めて読んだ時、「私」は最初から最後まで気持ちが変わっていて強いなあと感じていました。でも授業を受けるにつれ、「私」はサッカーボールの話や銀木犀の話などきっかけがあつて気持ちを変えることができたんだなと思いました。改めてしっかり読んでみるとたくさん共感できるところがあり、物語をしっかり読むって大事なんだなと思いました。比喩表現などに注目し、物語を詳しく読んでいきたいです。

(生徒W) 今回の物語は学校のもので最初は複雑そうだなと思ったけれど、戸部君が場を和ませたりするところが良いと思いました。そして少し身近な感じがして自分の身と同じようなこと。

→「星の花が降るころに」を学習して、最初はそういう話が分からなかったけど、友達との関係などを書いていると思いました。戸部

君は少ししつこくて、でも、「私」が夏実とトラブルがあったのを見ていたけど、水飲み場で笑わしてくれたりしていたけど、実際は夏実とトラブルがあったのを知っていて、笑わしていたのかなと思いました。そしておばあちゃんの話から聞いた常緑樹の花について「私」は古いことばかりにとらわれないようにしようと思ったのだとわかった。

(生徒X) 私が一番心に残ったのは戸部君が「私」を元気づけるために「いいかよく聞けよ・・・お前は俺を意外とハンサムだと思ったことがー」「ーあたかもかもしれない」と言ったことです。少し私も笑ってしまって、「私」は悲しい思いだったのに笑わせてくれていたのですごかったです。

→「私」は最初、夏実と仲直りできなくて、夏実の他に友達と呼べる人なんていないと思っていたけど、戸部君がサッカーボールは縫い目が弱く、そこからほころびると言って、サッカーボールを磨いているのを見て、自分の考えていたことが小さいものだと感じた。そして、銀木犀の葉は、古いままではなく、新しく葉へと生え変わるということを知り、「私」も今までの思いではなく、これからのことに向き合おうと思った。この話は、最初は過去のことばかり気にしていた「私」だったけど、色々な出来事がある中で、「私」は向き合うのは過去ではなく、これからと向き合おうと心が変わっていた。

これらの記述を踏まえ、今回の実践を通じ、生徒はテキストを多角的な見方で読むことができた。「主人公の気持ちが変化しているということに気が付くことができている」「主人公の気持ちの変化に戸部君や銀木犀の話が影響していることに気が付くことができている」という生徒が多くいて、本文の場面や描写を結び付け、具体的に考えることができている。

7.まとめと課題**(1)まとめ**

生徒のワークシートに「全く違うのもあれば似ているものもあって、班が違う人の意見

を聞くことも大切なのだと思った。」や「友達の意見とかを聞いて変わってきたり、同じ考えとかもあったりして、班での意見交換とっても良かったです。」などの記述が多くみられた。また、生徒は、ワークシートの「気持ちの変化」の間に設けられた「理由・根拠」の欄を基に話をしていたり、ワークシートによって「個人→グループワーク→個人」の順で考察することで、自分の考えと他の人の考えで違う点や似ている点を明確化し、考えたりすることができた。これらの生徒の活動の見取りから、多角的な見方を育てるためにワークシートベースのグループワークは有効であるといえる。

本実践前後の感想の比較により、生徒は、表面的な読みから、本文中の描写や場面をつなげて、具体的に考えることができ、本質的な読みをすることができた。このような生徒の活動の見取りから、多角的な見方を育てるためにワークシートベースのグループワークは有効であるとともに、テキストの読解により本質的な読みをしていくことができるという影響を与えるといえる。

(2)課題

①ファシリテーションの役割

グループワークの様子を見ている中で、自分の考えが正解かどうか分からず、その点を気にして、自分の考えを言うということのためらっている生徒がいた。実習等の経験から、このような生徒は少なからず存在するのではないかと思う。そこで、教師が、生徒に対し、「多様な考えがあって良いのだから、自由に考えを出そう」というような声掛けを行い、正解か不正解かが問題なのではないという雰囲気作りを促す等の改善が必要である。

③ フリーライダーへの対応

本実践の成果に、フリーライダーを減らすことができたといえると述べたが、グループの話し合いに参加しない人がわずかに見受けられた。そこで、1つ目に、司会や発表、記録といった役割分担をする必要がある。これは、主に意図したフリーライダー※1への改善で

ある。2つ目は、付箋にいくつか考えを出して、それを共通項でまとめ、グループごと発表することが考えられる。これは、主に無意識なフリーライダー※2への改善である。(※1・2は、森(2017)を参照)

今回は、生徒全員を対象にして変容を見ていったが、「フリーライダー」と見なされる生徒の感想等には、どのような変容があるのかも今後検討していきたい。

8. 参考・引用文献

安東みきえ『星の花が降るころに』(光村図書出版「国語1」より)

中学校国語 学習指導書1 光村図書出版

千葉泰介・武川直樹・望月俊男・山下清美(2010)

学生のグループワークを活性化する要因の調査 専修大学ネットワーク情報学会

福田由紀(2011)「集団において思考は発展するか」 特集 各教科における思考—国語、社会、算数、数学、理科、外国語— 指導と評価 11月号

神奈川県立総合教育センター(2015)はじめよう学習活動研究会～主体的に学ぶ生徒をはぐくむために～

森朋子・溝上慎一(2017)「アクティブラーニング型授業としての反転授業 理論編」 ナカニシヤ出版

溝上慎一(2018)「(講話) ワークシートベースのアクティブラーニング型授業にする」

溝上慎一の教育論

鳴島甫・小林俊夫(2010) 目的を明確にした言語活動で思考力、判断力、表現力を育む 小学館

(https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/02toku_0351.pdf)